



入繪

佐惣物語

上

M12
8865
/



伊勢物語上之卷





伊勢物語上

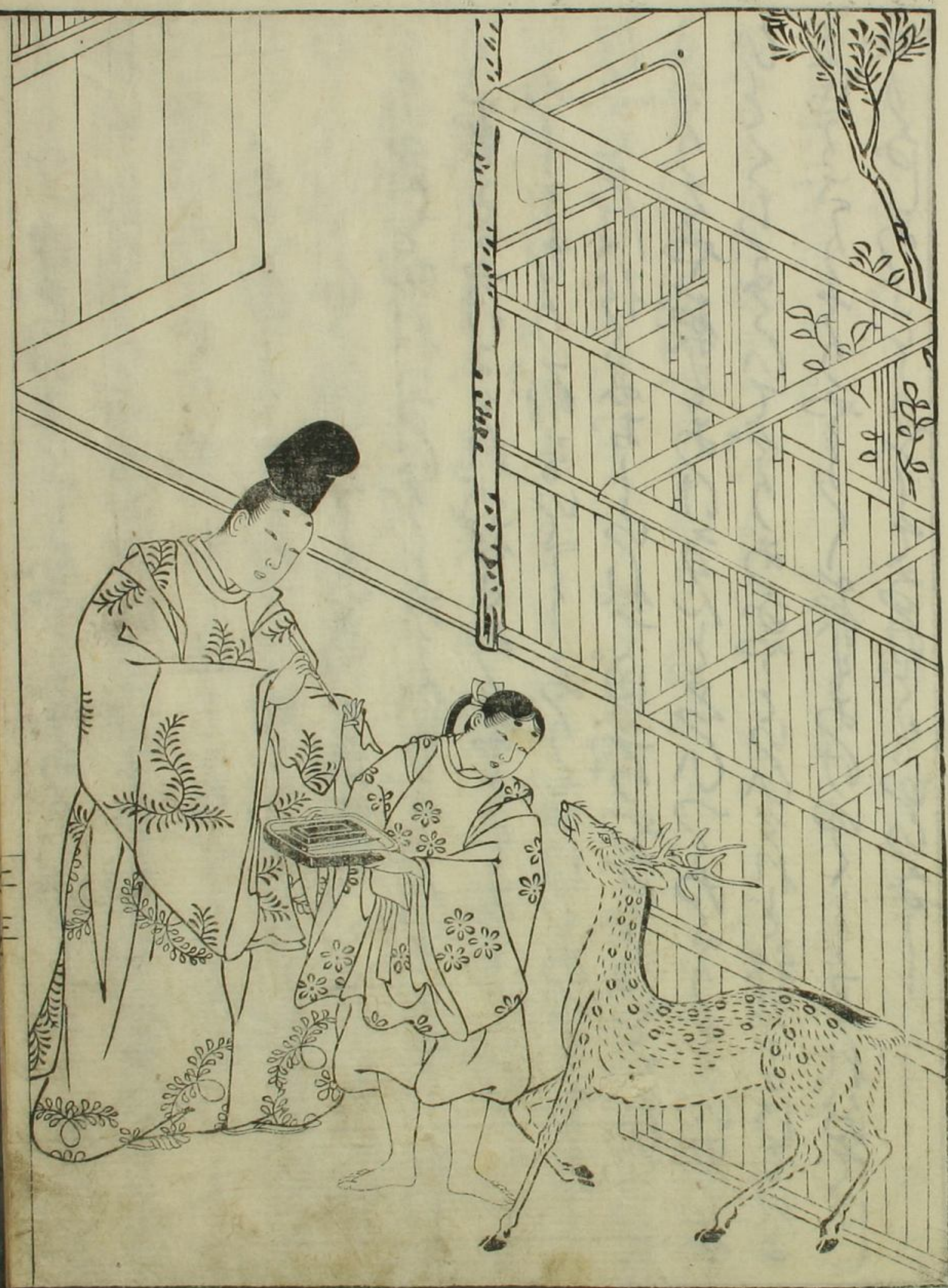
和蘭 ^{オランダ} 男 ^{おとこ} うぬうふりてあゝのゑもすゞの里 ^{さと} にあふ
 けり。あそかりにいぬなり。そのけしふいとおぬめなり。女
 もあそすみくらもけ男 ^{おとこ} かひまゝてなり。おれいど。故 ^{ふる} 里
 又 ^{また} といはしめてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて
 まゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて
 うのゆゑ。志 ^し のぶとけ。持 ^も 衣 ^い とあふ。まゝてまゝて
 ちとが野 ^の のゑもまゝて衣 ^い 志 ^し のぶとけ。まゝてまゝて
 まゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて
 みらのけ。あふ。まゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて
 まゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて
 まゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて
 まゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝてまゝて

二昔男もさうさうのまゝなるもけさう人の家へい
まゝさうける時はおもひ女もさうさうの女也人
れつさう。その人おゝらうつ。おらんはさうつさう。
のともあゝさうさう。それさうのまゝ男。さうあゝ
てうりさうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
おらんはさうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
三昔男もさうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
二条の后乃まゝさうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ

四さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ

ありさうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ

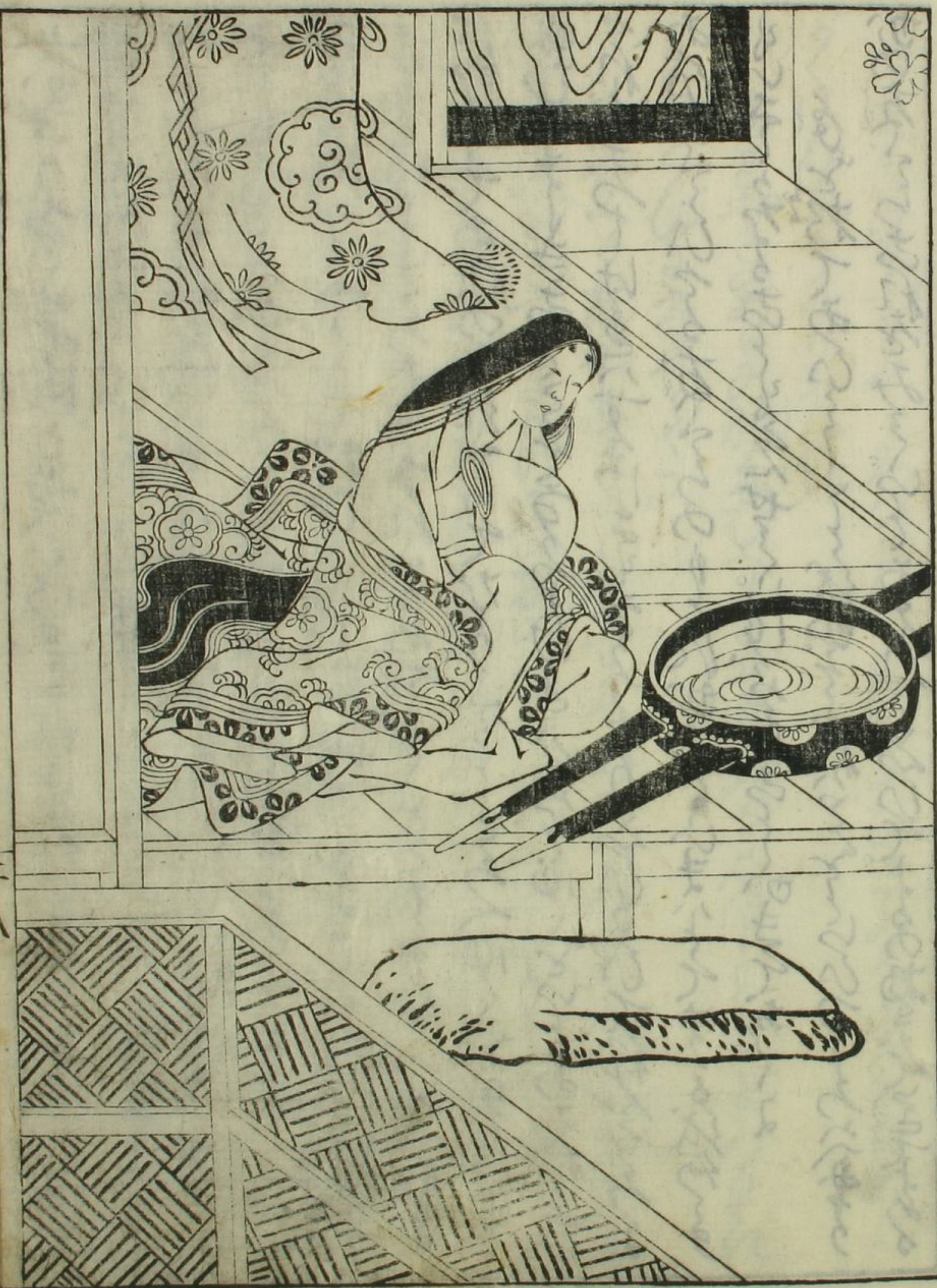
五さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ
さうさう。さうさう。おらんはさうのまゝ



[illegible]

[illegible][illegible]

みよけのひらりもひらり君がむねでよるとなうとて



十九 ひう。男^{おとこ}ははく^{はく}ける女^{をんな}のこゝに。おそろなりやうを。あひ
ま^まり^りと^となる。や^やど^どあ^あく^くお^おど^どと^となり。お^おれ^れど^どあ^あれ^れ女^{をんな}のあ^あは
え^えゆ^ゆの^のあ^あう^う。男^{おとこ}はあ^ある^るあ^あう^うとも^もお^おり^りひ^ひて^て女^{をんな}
^{古今} 万^ま戸^ほの^のよ^よそ^そに^にも^もの^のあ^あり^りゆ^ゆに^にあ^あは^はえ^えゆ^ゆの^のあ^あう^う
と^とよ^よあ^あり^りを^をお^おへ^へお^おと^とう^う。

わはぐもれそよのこゝろにけおるゆゑにやう
や。あうたるふねとこゝろ人ときんいける

(二十) 昔男やまとはある女をさんくよひてあひなうり。さてど
ろく定づるふらへなりたれが。つりくるたよ。やよいとるにえで
のしらめいとあもし。あきとおる。女のりふたよりいひや。
あごこちさおれるぢいすゑだう。わくこそ林のみぐらにされ
とて。やりたりたれば返事なまにまつたてらんか。くきをつける
いつのまふうろふきのはきぬんきみ。けしむすゑあらば。

(廿二) ひう。男。女。の。め。う。う。あ。ひ。う。う。で。あ。を。あ。う。う。う。う。う。
 とう。ち。う。事。う。あ。り。う。ん。い。う。う。あ。う。う。う。つ。を。て。世。中。を。う。し
 や。あ。ひ。ひ。て。い。う。う。い。う。ん。と。あ。ひ。て。う。あ。う。う。を。あ。ん。う。み
 う。あ。う。う。の。ま。つ。を。は

ちういふがうらゝといひわせん世のありさまを人々も秘で
 とよみきて。ちういふやうは女めく^{なつて}去をたてられあへんぞと
 てきぢもわざぬをあらよりてあらんと。いふこころに
 いふさなりとゆえんと。めでふいで。とみるもみされけり
 とまうりともおちてざりけれ。うづりのしるし

今やいまだ世たりたり年月をあづかりきうて我やすし
 とのいふなりめなり

人いさむやすんあうゝあひけうのさうとんは
け女といさくあうそあひけうとあひけんいそせう

今こそさういふおのゝねをふく人のさういふおのゝね
ふくられまゝいふたきおのゝねをふく人のさういふおのゝね
ふく。あつ。さういふおのゝねをふく人のさういふおのゝね

中ぞいふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく人の
さういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく人の

昔はあつておのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく
人のさういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく

秋の夜はちよひのさういふおのゝねをふく人のさういふ
おのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく人のさういふ

いふ。さういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく

昔はあつておのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく
人のさういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく

中ぞいふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく人の
さういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく人の

今こそさういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく
人のさういふおのゝねをふく人のさういふおのゝねをふく

上

あふちといふのさげろおつてはきこゝろのなぐさふん

いそを新む女とあるまじう

む。好い女ふ年あらうて

いりねい何と云ふやうに

そふふありとちりふちりきあれべゆとこ

1

わく^い乃ち^いく^いは^いや^いあ^いや^い

ひうたとはさうけくのりふ

あてゝはなぐー

むくみあもろそきもろくのち

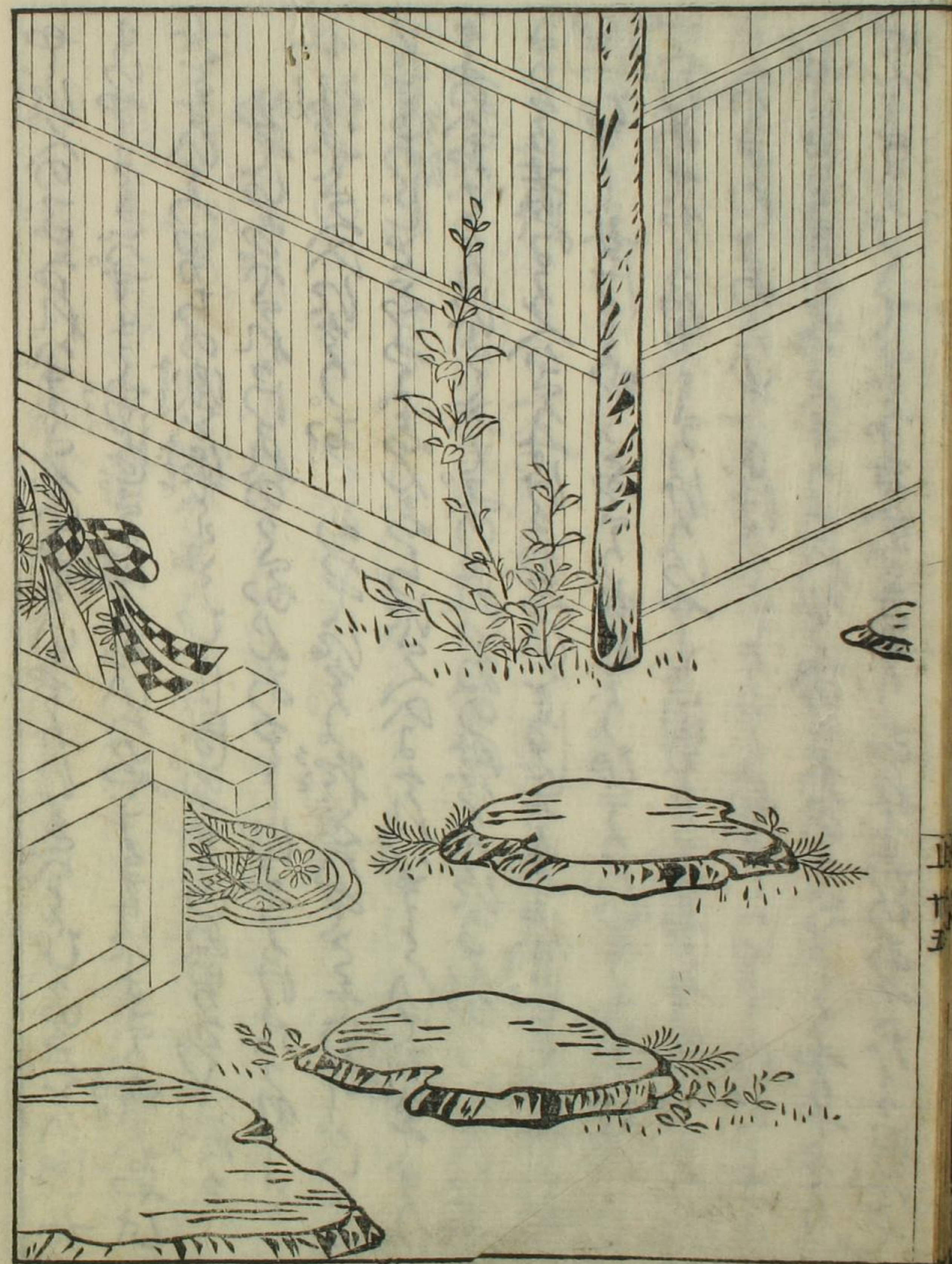
あてはなぐー

しへえまゝいへむ程はそれていひふゝあぐさあ

ひつねはさるるけふのりふ

[illegible]

[illegible][illegible]



くもぐにたふの日にあむれづのあてなくおぞろき
 ⑥昔男いとううき友有さう。や耐さばあひといさる人
 のあひいきけと。とあまことといて。けれなさう。月りてきこ
 せさう。又よあさましくあひめんぞ。おのへはける。う。とれ
 やさあひよえんと。う。なひつひてあんゆる。世中の人の
 あうれづとれあへきおよそあられと。う。それ。傍々家
 ちうもあやう。あひさす。う。と。おそれ。あ。あ。あ。あ。
 ⑦む。男。おん。う。い。ぞ。と。や。女。さ。う。う。され。い。お。こ
 と。あ。さ。う。と。き。う。て。は。れ。る。さ。の。は。さ。う。に。う。る。

を。あ。ち。か。う。と。き。そ。は。れ。さ。の。と。ほ。う。に。し。る。

おぬさゝ家々そそれあづけてもつめよるせあつておを

いまでもあまのけしきとくまをえんはをばうれとてあまをう

—

